

ゲレンデが親子の笑顔でいっぱい

～2007カルルス温泉冬まつり～

3月4日(日)、カルルス温泉サンライバスキー場で、『2007カルルス温泉冬まつり』（同実行委員会主催）が開かれ、ゲレンデは約1,800人の親子連れなどでにぎわいました。

暖冬で、市街地には雪の無い冬が続く中、同スキー場の積雪は1メートル。この日は天候にも恵まれ、『雪中みかん拾い』や『親子ボブスレー大会』『ストライクワン』『ホールインワン』『オロフレ雪原宝探し』『雪上もちまき』の雪に親しむゲームのほか、『無料スキー講習会』や『無料スノーボード講習会』『歩くスキーの集い』と多彩なプログラムが用意されました。

50組限定で行われた『親子ボブスレー大会』では、勢い余って転倒する親子が続出するなど、観客を盛り上げていたほか、景品総数802本の『オロフレ雪原宝探し』では、参加者全員が真剣な表情で木の根元などの雪をかき分け、特賞のカルルス温泉宿泊券（2本）が当たる赤いボールを探していました。



▲雪中みかん拾い



▲親子ボブスレー大会

災害時の対策に協力します ～災害時における応急対策等に関する協定～



▲協定書に調印する上野市長（左）と草塩会長（右）

3月12日(月)登別建設協会、13日(火)登別管工事業協同組合が市役所で『災害時における応急対策等に関する協定』を市と締結しました。

この協定は、市内で地震や大雨などの自然災害が発生、または発生の恐れがある場合、市の要請に基づき登別建設協会が建設資機材や人員の確保、応急対策に協力するとともに、登別管工事業協同組合が水道などのライフラインの復旧に努める内容となっています。

草塩忠幸登別建設協会会長は、「災害時に迅速に対応できるように、今年行われる総合防災訓練でしっかりと勉強したい」と話していました。

100年の歴史に幕

3月11日(日)、登別温泉小学校体育館で歴任教職員や卒業生など約260人が出席し、閉校記念式典が行われました。

式典では、在校生23人が来場者と向き合い、学校生活を振り返りながら「温泉小で学べたことをいつまでも忘れません」と別れの言葉を述べ、西正志校長が「野の花よりも美しい心と風雪に負けないたくましさの精神で楽しい学校生活を送ってほしい」と新しい学校に通う子どもたちにエールを送っていました。

続いて西校長と三浦舞児童会長が上野市長に校旗を返納し、出席者全員で校歌を斉唱しました。

同校は明治39年『湯の滝簡易教育所』として開校。児童数の減少により、登別小学校との校区一体化が検討され、平成18年度で閉校することになりました。

～登別市立登別温泉小学校閉校記念式典～

